

11月県議会（11/24～12/9）が開会中です。

12月1日の **和田あき子** 県議の一般質問と答弁を紹介します。



阿部知事・政治資金問題

阿部知事の後援会収支報告書について、外国人からの寄付受け取りや、現役官僚・OBからの寄付を「会社員」として報告していたこと、後援会長が受け取った寄付金の不記載などが報道されています。和田議員は、「政治資金規正法違反の可能性があります、返却・勘違いでは済まされない」と批判。さらに、資金管理や後援会事務を担当していた人物を4月から県の任期付職員として採用していたことを取り上げ、「縁故人事・論功行賞と言わざるを得ない」として知事の政治的道義的責任を問いました。阿部知事は「説明責任を果たす」、「(職員採用は) 問題ない」としました。

浅川ダム 調査中は工事の中断を

浅川ダム工事現場で行われている FV 断層の安全調査について、和田議員は、「安全性が確認されるまでは工事を中断すべき」と知事を質しましたが、阿部知事は「今までは安全であるということを進めてきている」「これまでの判断を尊重していく」として、工事は中断しないという姿勢を崩しませんでした。

和田議員は、浅川ダム建設費について、平成20年度からの3年間で予算44億5千万円の5割、約22億円を繰り越していることを指摘。「厳しい県財政のなかで異常な事態。予算の半分以上を県債で手当していることをどう捉えているのか」として、新年度のダム予算は必要ないと主張しました。建設部長から「工事用道路の用地、地すべり対策の用地問題」などで繰越が出ているとの説明があり、阿部知事は「限られた財源であり、十分精査した上で予算を計上したい」としました。

ダム建設の今後の予定としては、追加調査を12月中旬頃終了し、専門家へ意見を求めた上で住民説明を行うことが明らかにされました。

地域公共交通の確保を

公共交通のあり方について和田議員は、リニア中央新幹線最優先ではなく、県民生活に密着した地域交通の位置づけを県として高めるべきと主張。長野電鉄屋代線の廃止問題では、「バスによる代替」が議論されていますが、ディーゼル車、次世代型路面電車（LRT）など住民から示されている具体案も含めて「鉄道での存続」を願う地域住民の声に応える支援を県に求めました。

イノシシによる農業被害 捕獲の支援強化を

イノシシによる被害は農作物だけでなく、田の水路や畦を壊すなど農地にも及びます。和田議員は、捕獲補助金の増額や、効率の良いワナ猟の推進など県の対策を強めるよう求めました。

